

令和5年度 学校評価まとめ（児童・保護者・教職員の対比）

| 対象 | 項目 | 番号 | 質問内容 | 肯定的意見 | | | 結果・考察 |
|------|------|----|--|-------|-----|------|---|
| | | | | 児童 | 保護者 | 教職員 | |
| 児童 | 行動面 | 1 | 楽しく学校生活を送っている。 | 78% | 86% | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標「元気で 明るく 今をがんばる北城のこども」に向かっている子どもたちの姿がわかります。 ・あいさつをすることや、ルールを守って生活することについては、具体的にどのくらい、どの程度などについて、子どもとも話しをして納得の上、取り組むようにしていきたいと思います。 |
| | | 2 | 挨拶をしっかりと行うなど生活のマナーやルールを守って生活している | 79% | 82% | 63% | |
| | | 3 | いろいろな友だちに優しく接することができる | 78% | 90% | 74% | |
| | 学習面 | 4 | 進んで読書をしている | 68% | 50% | 74% | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書の時間や図書館の時間など、設定した時間には、落ち着いて本に向かう姿が全校で見られますが、家庭での読書を含め、読書量には個人差があります。低学年を中心に、読み聞かせなども積極的に行っています。 ・家庭学習は、学校での学習の定着や自分で学習を進める力をつけるために大切ですが、取り組むのが大変なお子さんには、児童・保護者と相談してよい方法を考えていきます。 ・授業の中での「話す」「聞く」指導だけでなく、他者の話を聴けるようになることが、相手や自分を尊重することにつながることも、合わせて指導していきたいと思います。 |
| | | 5 | 毎日、家庭学習をするなど、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている | 75% | 72% | 67% | |
| | | 6 | 場に応じた丁寧な言葉で話したり、じっくりと人の話を聞いたりすることができる | 70% | 64% | 30% | |
| 学校教師 | 授業 | 7 | 一方的な教え込みにならないように、子どもたち同士で話したり考えたりできるよう授業改善に努めている | 80% | 68% | 96% | <ul style="list-style-type: none"> ・一方的な教え込みの授業にならないように、子どもたち同士のかかわりの中で学習を深めていけるよう教師一人ひとりが研鑽をし、今後も授業改善に努めてまいります。 ・毎年『体力テスト』を全学年で実施し、児童が自己の体力について理解するとともに、職員間で児童の傾向について共通理解しております。また、より体力を高め、運動・スポーツの楽しさが感じられるような授業づくりに努めてまいります。 |
| | | 8 | 子どもの健康・体力の向上に努めている | 85% | 87% | 100% | |
| | 児童理解 | 9 | 子どもの気持ちを理解しようとし、真剣に対応している | 82% | 62% | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・「話を聞いてもらえた。」「わかってもらえた。」と児童が思えるように教職員がゆとりをもって子どもたちと向かい合えるようにしていきます。 ・「いじめは許されない」ことを子どもたちの心に落ちるよう指導していきます。トラブルがあった際にはお互いが納得できる解決になるよう対応していきます。 |
| | | 10 | いじめや事故の未然防止や早期発見・解決に努めている | 89% | 47% | 96% | |
| | 道徳 | 11 | 命の大切さ・人権・情報モラルを指導している | 91% | 65% | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さや人権にかかわることは、道徳の授業だけでなく、学級での友だちとのつながりかた、特に、人はみんな違って、お互いの違いを認め合うことを大切にした学級経営に、今後も取り組んでまいります。 ・これからも、子どもや学級・学年・学校の様子をお便りでお伝えし、子どもの成長を保護者の皆様と一緒に支えていきたいと思っています。 |
| | 情報 | 12 | 学校だよりや学年・学級・保健だより等で分かりやすく情報発信している | 89% | 82% | 93% | |

【子どもたちが、よりよい学校生活を送るためのご提案】

【子どもたちが、よりよい学校生活を送るための提案】にたくさんのご提案をいただきありがとうございます。紙面の関係で全てを掲載することができませんが、ご提案いただいた内容については今後の子どもたちの学び、学校運営に活かしてまいりたいと思います。同様に、お書きいただいた全文を掲載できず抜粋した部分もありますのでご了承ください。

(励ましのお言葉)

- ・教職員の働き方改革をさらにすすめ、健康でいてくださることが児童に良い影響をもたらすため、引き続き改革をすすめてほしい
- ・おかげ様で、毎日楽しく学校へ通っております。算数や漢字等は、学習の習熟度が分かるしくみ(小テストなど)が頻度高くあるとよいのではないかと思います。本人にフィードバックはあるのかもしれませんが、親が知る手段が不足しているように思います。

○教員が子どもとかかわる時間や授業準備の時間などを確保するため、ICTを活用して校務の効率化をはかったり、教員がやるべき仕事をはっきりさせたりして、教員が元気で子どもたちと向き合えるようにしたいと思います。

○学習の習熟度については、各学年・学級ごとに単元テストの他に、授業時間中に小テストなど行い、学習の定着について確かめています。学びの過程として懇談会で話題にしたり、通知表でお知らせしたりしておりますが、何かご心配なことがありましたら、担任までお問い合わせください。また、ご家庭でもお子さんとの学校での話題の一つとして、お話をしていただけるとありがたいです。

(ご提案)

A 保健・衛生関係

- ・今年の夏はとても暑く、みそら野地区など登下校に時間のかかる地区は命の危険を感じることもありました。バス運行は予算がなどと言われますが、夏休み明けなどまだまだ暑い日が続くので夏季のバス運行期間をのばしてほしいです。夏休み明けは本数を減らすなどでも構わないので、子供達が安心安全に通えるように配慮して欲しいと思います。
- ・太地町を訪問するのは、教育課程に沿ってのことなのか教えていただきたい。二泊三日でかなりの遠距離移動を子ども達にも先生方にも強いさせる必要がどこにあるのか教えて下さい。姉妹都市交流は村の教育委員会が希望者を募って連れていけばいいのではないですか？何かあったときにこんな遠距離を親が迎えに行くことはかなり困難だと思います。暑さ指数も考えずに磯遊びをさせている危険性もどうお考えなのか。子ども達はただ遠くに行けて楽しそうだが、それで良いのか？村からぜひご回答をお願いしたいです。5年生の学習内容にふさわしい学びができる宿泊学習であってほしいです。わざわざ和歌山で行かなくても良いと思います。

○スクールバスの運行についていただいたご意見は、白馬村へお伝えいたします。

○太地町訪問についても、白馬村へご意見をお伝えいたします。その上で、学校行事として実施する際に検討すべき事項については検討いたします。

B 学習面

- ・対話を重視した学習をよろしくをお願いします
- ・短期的な記憶のみに留まらない、より思考力を伸ばす教育をしてほしい。英語の話せる生徒には別の英語の授業を用意して頂きたい。
- ・子どもの自主性を伸ばすこと、とても良いと思います。ただ、学年や能力に応じて力の差もあるので、ある程度の見本やアドバイス、ヒントが必要な場面もあるかと思います。その辺りの判断はとても難しいとは思いますが、子どもから「自由にと言われて、全く何をすればいいのか分からなすぎた」と家で漏らしたこともありました。今後の課題にしていだければと思います。
- ・道徳の時間などに、子ども哲学を取り入れたらどうでしょうか。毎回テーマを一つ決めて、子ども達にルール範囲内で自由に意見を言ってもらい、ディスカッション形式にしたら、日頃子どもたちが物事に対してどう捉えているのか、また子どもたちの中の関係性も見えて来る様な気がします。

○子どもたちが主体的に学ぶ上で「対話」は欠かすことができない活動で、本校では、学習や生活の中で「聴く」ことも大切にしています。自分の考えを持ち、友だちの考えを聴いて、さらに自分の考えや学びを深めたり広げたりするためです。

○ご意見を頂きました通り、一人ひとりの子どもが必要とする支援・指導は異なります。個々の子どもがどのような目標やゴールを持って、どのような方向で進んでいくのか、子どもの考えや意見を把握して、それぞれの子どものに応じた効果的な支援・指導ができるように心がけてまいります。

○道徳の時間は、「特別の教科 道徳」として、教科書を用いて指導しており、子ども同士が対話しながら考える場面も取り組んでおります。、「子ども哲学」のように子ども自身がテーマを決めての形式が取り入れられる場面や時間があるか考えてみたいと思います。

C 生活面

- ・今、5年生は1クラスですが、あの人数ならやはり2クラスの方が良いように思います。先生の負担が増え、良くも悪くも目立つ児童には目が行くけれど、そうでなく言いたいことがあってもうまく発信できず埋もれてしまう子が出てきてしまうように感じます。先生の手不足や地域柄のこともあるとは思いますが、児童のため、毎日頑張ってください先生方のためにも、少人数学級についてご検討ください。
- ・今年的一年生について、入学早々先生がとても大変そうでしたので、人数のきまりに縛られず途中からでも2クラスにするなど、子どもに目の届くような柔軟な対応ができればいいのにと親同士話していました。先生も子ども達も見ていて気の毒でした。
- ・現在一年生です。低学年のうちには2クラスにすることはできないのでしょうか？人数が多く、先生方の目が行き届いていないように思います。

○学級数については、長野県教育委員会で定められた1学級の児童数にしたがって、学級を編成しております。5年生、1年生については、1学級とならざるをえないため、白馬村から支援員の先生方を配置していただいたり、長野県からも担任以外の教員を配置していただいたりして、複数の職員で子どもたちの教育をおこなっております。

D 職員の関り

- ・もう少し一人ひとりに寄り添ってもらえると嬉しいです。
- ・子供達の意見を頭ごなしに否定するのではなく、ダメな理由を説明したり、できる方法を一緒に考えて欲しい。
- ・担任だけではなく色々な先生の出入りのある環境にすると先生、生徒ともに考え方や教え方に偏りが減るのではないかと
- ・先生でも間違えることもあると思うので、その時はしっかりと訂正し謝る姿をみせてほしいです。それと、先生の一方的な考えを子供たちに押し付けるような

事はせず、もう少し耳を傾けていただけるといいなと感じています。

○授業や学級での活動など、教職員も子どもの考えや意見をきき、納得して活動することを大切にしていきたいと思います。皆様から頂いたご意見を真摯に受け止め、子どもとの接し方や学級運営に活かしてまいります。

E 学校評価アンケート

・このアンケートの回答集計を誰が行うか(実名記載をした際に、担任が直接目を通すのかどうか、など)も記載があるとよいと思います。担任には直接伝えることが学校へ伝えたいことの伝達手段としてこのアンケートを利用してよいのかが分かれば、より保護者の本音が出るかと。

○【子どもたちが、よりよい学校生活を送るための提案】にたくさんのご提案をいただきありがとうございました。この学校評価アンケートについては、基本的には校長、教頭が内容を拝見し、係職員が集計作業を行っております。いただいたご意見を学校運営に反映させるため、必要に応じて担当の係職員に伝えております。今後も子どもたちがより良い学校生活を送ることができるよう、ご意見をお願いいたします。

F 相談・連絡

- ・学習に苦手意識が出てしまい、登校も勉強があるから嫌だ。と、言い始めてしまいました。相談窓口が広く設けてあればな、と、思います
- ・子供達が自由に相談できるスクールカウンセラーの先生がいると良いと思う
- ・先生方も日々子どもたちとの関わりで、大変ご尽力いただいている中で、その日その日の出来事を、家庭への連絡まで手がまわらない事かと思いますが、その日に解決できないようなことは連絡いただくと、家庭でも子どもとの話を出来る時間になるように思います。反面、保護者も子どもの断片的な話で事を大きくしてはいけないな。と感じています。
- ・学校または担任の先生と保護者の間で、タイムリーに連絡が取りやすいシステム(アプリなど)を導入してほしい。
- ・例えば SDGs 等叫ばれて久しい世で、紙配布のものが多いのは、どうかと思う。不便でもある。アプリやグループチャットなど、活用できたほうが、後々、絶対に良いと思う。「子供の責任感育成」「家庭との関わり、役割」などが目的であれば、他のことで育てることが可能だと思う。その他においても、時代にあった、ストレスフリーなものや、時に新しいものを創ったり、既存のものをブラッシュアップする勇気を応援します。大人や社会も柔軟に変化していく姿勢を、のびのびとした姿を、勇気ある自由な発想を、子どもたちに見せていくことも、一つの教育の在り方だと思う！

○学習や学校生活全般についてのご相談は、まずは担任、または特別支援コーディネーター・養護教諭・校長・教頭など、どの職員でもお気軽にご相談ください。常駐はしていませんが、スクールカウンセラーの先生も児童・保護者の相談に対応してまいります。校内はもとより外部機関とも連携し過ごしやすい環境を整えていけるよう努力してまいります。また、担任だけでなく、支援員含め複数の職員で授業中の学習のつまずきから学校生活全般にわたり児童の様子を見ています。保護者の方との二人三脚でお子さんの育ちを支えられるよう、できる限り連絡を密にとっていくよう心掛けていきます。

○学校との連絡手段やお便り等の配布についても、絆システムの活用などを継続するほか、環境への配慮や利便性についても様々なアイデアをいただきありがとうございます。更に向上できるよう検討して参ります。